

## 地域課題① 健全な財政運営に向けた検討や、組織の見直しによる役員等の負担軽減

### ★具体的取組の例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- 公民館類似施設運営・活動費補助金の有効活用

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	67%
取り組まなかった	9	33%
無回答	0	0%

### 具体的取組とその効果など

- ・自治会費改定初年度予算編成に伴う支出予算の見直し
- ・住民負担軽減のため、少しだが自治会費の削減と自治会事業に見合った役員体制にした。
- ・自治会組織検討委員会において、自治会執行委員の選出方法を決め、今後役員の定数、各部の再編を検討していく（継続中）。
- ・各事業や行事内容の見直しと各部の再編成を検討している。
- ・住民負担軽減の為、自治会費を78%減額。各報酬も2割カットを実施。現状に適合した組織改革を行い、役員を1名減らした。但し、各行事の予算は減らさないで現状維持
- ・健全な財政運営を図るため、補助的交付金の交付手順の改善に努めた。金額の妥当性の検討を図った。
- ・平成31年（2019）2月から自治会役員で今後の集落費（自治会費）のあり方について検討し、そのたたき台を自治会員に提案（話し合い）したが、コロナ禍によりまだ実施していない。今年こそ行っていく。
- ・仕事をしながら自治会長が務められる様に業務を分担協力した。

## 地域課題② 将来を見据えた単位自治組織の検討

### ★具体的取組の例

- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 若者や女性等、多様な人材の活躍の場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	48%
取り組まなかった	14	52%
無回答	0	0%

### 具体的取組とその効果など

- ・役員間の会議連絡、議事録、災害箇所等の画像の共有化をLINEやメールで行うことによって、用紙の削減や負担軽減を図った。
- ・役員や部会毎でのLINEのやり取りで会議や諸連絡と会長専用携帯電話を取り入れ、住民の声を積極的に受け入れた。
- ・役員同士LINEでやり取りができるようになり、会議の日程調整、連絡などがスムーズにできるようになった。
- ・自治会行事や各種団体に若者を取り込み参加を呼びかけているが、なかなか進まない。

- ・各部署の合併等（兼務可能なもの）で部の数を減らし、スマートな体制に改革した。
- ・各部の事業内容の変更見直し
- ・世帯数の減少、人口減に見合った事業についての検討を始めている。
- ・もはやこの自治会内だけで活動は出来ない。他地域に住む方の力を借りて活動をしていくしかなく、公民館主事を他集落から迎えた。
- ・老朽化した有線放送設備に替えて無線放送を整備した。

#### 具体的取組とその効果など

- ・高齢化により将来的に自治会を維持していくことができるのか不安はあるものの、具体的な取組を行うことはできなかった。

### 地域課題③ 安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進

#### ★具体的取組の例

- 住民が災害対策意識を強く持つように、定期的な避難訓練と有事に備えた話し合いの機会や講習会の開催
- 自主防災組織の機能点検

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	22	81%
取り組まなかった	5	19%
無回答	0	0%

#### 具体的取組とその効果など

- ・初期消火訓練の実施
- ・災害時避難行動要支援者支援制度への着手（研修会、各部単位の説明会）。
- ・消防団員の減少により隣の自治会と連携
- ・個別避難計画作成の説明会を開催し、自治会会員の世帯名簿作成を行った。
- ・寺の住職及び護持会役員の了解を得て2次避難所とし、災害備品の整備をした。
- ・自主防災組織の機能や役割について協議を行い、災害備蓄品の補充を行った。
- ・津波避難訓練への参加には協力的で、意識の高さを感じる。
- ・コロナ禍になってから避難訓練を行っていなかったが、令和4年度は消火栓訓練を実施した。
- ・住民が集まる際、敬老会等で防犯・防災への注意喚起を行った。
- ・市の防災アドバイザーによる「防災サポート出前講座」を活用し研修会を実施した。
- ・コロナ禍で2年間中止していた住民を対象とした避難訓練を実施した。また、防災計画書を作成した。
- ・訓練のタイムを計測し、昨年と比較。住民の防災意識の高揚に努める。
- ・第2次避難場所の備品の点検・確認を役員で実施した。
- ・自主防災組織の機能点検
- ・毎年、6月18日の山形沖地震を忘れないため、有線放送や消防団のパトロールで意識確認し合っている。
- ・自主防災組織の作成、安否確認訓練
- ・自主防災会による空き家などの予防査察・豪雨による避難訓練・高齢者等の避難確認訓練

- ・小学生による火の用心活動
- ・コロナ禍で防災訓練は実施出来なかったが、地元駐在員や消防団との連携は図っている。
- ・自治総合センターのコミュニティ助成事業により、老朽化した消火栓ホースと格納箱の更新を行った。

#### 地域課題④ 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり

##### ★具体的取組の例

- 世代間交流などによる伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 地域理解を深めるための学習支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	44%
取り組まなかった	15	56%
無回答	0	0%

##### 具体的取組とその効果など

- ・公民館事業の実施（環境美化活動、ラジオ体操、花火大会等）
- ・地域の清掃作業を子供達と一緒にいき、地域の環境美化活動に取り組んだ。
- ・駅前花壇の花植えと水やりを、小中学生と保護者、自治会青少年部員が毎年継続して行っている。コロナで行っていなかった海のレクリエーションも復活した。
- ・地域の伝統文化を知り、理解を深めてもらうため子供達と「臼を使った餅つき」と「ナシ団子作り」を実施した。
- ・コロナ禍でここ2年間、祭典の獅子舞・ワッパ舞奉納が中止となったが、今回は感染対策を行い実施した。模代伝統芸能の継承を若い世代と共有できた。
- ・放課後子ども教室スタッフ、みちくさ会スタッフとして地域住民が参加しており、子供を地域で育てるという雰囲気が出来ている。
- ・コロナの影響もあったが子供夏祭りを実施できた。
- ・コロナ禍においても、盆踊り等での夏祭りや運動会の代わりにレク大会を企画したり、工夫しながらの開催を心がけた。
- ・小・中学生を中心としたクリーン作戦
- ・古典芸能の稽古を通して世代間交流を図った。
- ・若者を中心に獅子舞の継承を図った。

#### 地域課題⑤ 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり

##### ★具体的取組の例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	70%
取り組まなかった	8	30%
無回答	0	0%

### 具体的取組とその効果など

- ・老人クラブのおたのしみ会を新たに始め、毎月1回開催し会員の親睦を図った。
- ・独自にミニデイサービスを実施して体操などを行った後、お茶飲み話で交流した。
- ・グラウンドゴルフの練習をし、大会に参加している。
- ・自治会行事での住民の集まりの時の世間話
- ・敬老会で100才になった方をお祝いした。
- ・「災害時避難行動要支援者」の支援制度の内容確認
- ・浜中おたっしゃクラブから、コロナ禍で活動は減少したが、国道7号の花壇への花植えや農村公園の草刈り等を手伝っていただいた。
- ・老人クラブを中心に集落の4回の奉仕作業、グラウンドゴルフ大会、お楽しみ会旅行などにより、コロナ禍においてもコミュニケーションをとることができた。
- ・第4地区全体で高齢者に対して月1回あたたか弁当を届けている。民生委員・あたたか弁当スタッフががんばっている。鼠ヶ関公民館調理室で弁当を作っている。
- ・日常生活での支え合い体制の話し合い
- ・高齢者を対象とした講話と健康作りを行った。
- ・高齢者世帯・独居老人を対象に雪降ろし協力隊を結成し、協力体制をつくった。また、定期的に健康教室を開催し介護予防・健康づくりを図った。
- ・単身の高齢者世帯のうち、特に高齢の世帯について自治会作業や総会への出席等を免除することとした。
- ・山戸支え合い準備会への参加を促した。準備会への支援を検討している。
- ・コロナの為通常の敬老会が出来なかったため、野外で敬老いも煮会を開催した。

### その他

- ・日常の福祉や高齢者の福祉は大きな課題である。隣組のきずなや見守り等を確立して、隣近所が仲良く暮らしていけるコミュニティづくりを目指したい。

## 地域課題⑥ 広域コミュニティ組織の検討

### ★具体的取組の例

○地区自治会の今後のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	15%
取り組まなかった	22	81%
無回答	1	4%

### 具体的取組とその効果など

- ・人口減少による地区交流事業の在り方対応について検討
- ・今まで学区で区切られた地域での交流を重ねてきたが、摩耶山・小国川流域の親交・交流を深めるために親睦会を開催。大盛況だった。

### その他

- ・将来を見据え中長期の地域ビジョンの作成が重要と思われる。

**その他／ 地域で課題になっていることなど**

- ・大型旅館等廃屋が危険
- ・医療施設閉院に伴う生活不安
- ・少子高齢、空き家の増加
- ・消防団員の減少により、地域防災に不安を感じる。今後は自主防災組織を機能させ、可能な限り消防団に代わる体制を維持していくこととなるが、地域から部班が無くなると小型動力ポンプ付積載車も市に返納する必要があるとのことで、無償譲渡等も含めて検討していただきたい。
- ・自治会に課せられる業務を役員だけが負わされて荷が重くなっている。
- ・住民の高齢化による自治会組織の維持（若者不足）
- ・米作農家の高齢化により、「槇代の農業を考えよう」ということであつみ農地保全組合を呼んで研修会を行う。もう少し今の体制で行って、いずれ温海地区全体運営を考えた法人組織の中に入れてはベターでないか。いずれにしても耕作放棄は避けたい。
- ・生産森林組合の地縁団体移行について検討課題。行政は地縁団体移行を推進しているが、森林に対する意識が希薄になり、今迄温海地域は山・森があつて集落のコミュニケーションが維持されて来たが、益々離れて行く。考えが逆行している。
- ・テレビ共同受信設備の劣化。新システムにするには膨大なお金がかかる。今後住民との話し合い等により、対応を考えていかなければならない。
- ・有線放送設備の劣化により、毎年多額の費用がかかっている。対応策の検討
- ・自治会内での役員や他団体の担い手が選出されることが大変困難になっている。自分たちの地域は自分たちで守っていくという心がまえがほしいし、必要であり、集落内で議論していきたい。
- ・住民の高齢化により自治会行事（地域の環境整備等）だけでなく、地域の祭典等の行事の運営も困難になってきている。災害発生時の対応に不安がある。
- ・公共施設や商業施設等の閉鎖撤退が進む中、地域の活気が失われつつある。
- ・人口減少・高齢化による収入減と事業参加の減少
- ・自治会所有の山林の名義変更について

**その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など**

- ・令和5年度から、温海第2地区の事業やイベント等の減少、婦人会の独自活動が中止となるので、組織の見直しを検討しており、次期役員改選までに見直しを行う予定をしている。
- ・防災対策として消火栓や消火器の取り扱いなど何回も練習しても良いのではないかと、何年か前には実習しているが忘れていたので。
- ・集落内の環境美化
- ・自治会管理のカラ竹林があり、年に1回は間伐や肥料散布などを行っているが、せっかくの資源であるのでもっと活用できる方法を模索している。しかし一番の問題は人の確保である。
- ・一つ一つ行事を行う事が困難になってきているので「秋まつり」として、芋煮会や子供達のレクリエーションや、敬老会などを一括に行う行事を計画している。
- ・季節のいい時期に年3回位の輪投げ
- ・地域資源を活用した伝統料理の伝承
- ・新しい事業等でなく、今はコロナで中止・延期になった事業・行事等がそのまま衰退しないように、まずは今までやってきた事の復帰に取り組みたい。無気力感が人口減少に繋がらないように。
- ・4年ぶりに夏祭りの実施。新型コロナウイルス感染防止で実施出来なかった行事の復活に取り組む。

- ・自治会内に任意団体の組織化が出来ないか考えていきたい。(例として高齢者の方々の組織、ボランティア組織(草刈り作業等)によるお宮やお寺境内内地祭典の保存等)
- ・令和3年度までICTによる健康教室を実施していたが、昨年度は何も実施出来なかったので、今年度は健康教室等の実施を検討したい。
- ・コロナ禍で希薄化した地域コミュニティを取り戻すための事業を積極的に推進していきたい。
- ・地域の祭典や古典芸能の保存伝承について、少子高齢化に伴い人員の確保が難しくなっているので改革が必要となってきた。

#### その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・鶴岡市住民自治組織総合交付金の増額により、安定的な自治会運営を望む。
- ・閉校小学校をそのまま放置せず、地域で活用できる施設にしていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染防止で地域コミュニティの行事が出来なかった。令和5年度は以前の行事を復活するようにがんばっていきたい。